

# 平成29年度事業計画書

## 1. 基本方針

本協会を取り巻く環境は、近年の夏季の高水温や長期的な水温上昇傾向などの自然環境の変化や、種苗放流量の減少、金利低下に伴う資産運用益の減少など経営環境は厳しい状況にある。また、平成24年度に策定（平成33年度を目標年度とした10ヶ年計画）した経営改善中期計画の早期達成など財務体質の改善を図ることが求められている。

こうした中、栽培漁業の一層の推進を図るため「第7次山形県栽培漁業基本計画」に基づき、つくり育てる漁業の中核施設として、水産関係行政機関・団体と連携を図りながら、栽培漁業を計画的かつ効率的に実施し、県内水産業の振興に寄与する。

また、公益法人として、事業推進にあたっては常に事業の公益性・透明性を確保しながら経費の見直しを図るとともに法令順守のもと、より適正な協会運営に努める。

### (1) 種苗生産及び供給事業

山形県との業務委託契約に基づき、栽培漁業センターではアワビ、ヒラメ、クロダイ、アユ、トラフグ、モクズガニの6魚種、サクラマス古寺ふ化場ではサクラマスの種苗生産を計画的かつ効率的に実施するとともに、遺伝的多様性を考慮し放流効果の高い種苗生産を県水産関係機関と連携を図りながら実施する。

内水面水産センターでは、県内需要を中心としたイワナ、ヤマメ、ニジマスの放流用及び増養殖用種苗の生産と供給を実施する。

なお、栽培漁業センターでは、経営基盤の安定を図るため、放流及び中間育成用のアユ、食材用の庄内アワビ及びクロソイ等の生産し販売する。

### (2) 調査・研究事業

(ア) 魚類は、初期に与える生物餌料のワムシの安定供給が種苗生産の結果を左右することから、餌料価値の高い大型のL型ワムシの安定培養技術の向上に取り組む。

(イ) 貝類においては、初期幼稚貝の生残、成長を左右する小型で餌料価値が高い付着珪藻の培養技術の向上に引続き取り組む。

(ウ) トラフグの安定した種苗生産に欠かせない採卵用親魚確保のため、トラフグの短期親魚養成技術や短期精子保存技術の開発を継続する。

(エ) ヒラメの放流効果を把握するため、市場調査を実施するほか、種苗放流（ヒラメ）による資源造成型栽培漁業を推進する実証事業を受託実施する。

(オ) 安定的に遡上サクラマス親魚を確保するため、親魚蓄養技術の向上に取り組む。

### (3) 飼育管理技術の支援

中間育成用として供給した種苗について、その後の適切な飼育管理が求められており、疾病の未然防止や飼育管理技術について中間育成場等に対して支援するほか、種苗生産及び中間育成技術の習得のため研修生の受入れを行う。

### (4) 普及啓発活動の実施

栽培漁業や内水面漁業など本協会の役割を紹介するため、事業内容等をホームページに掲載し情報発信に努める。また、県の魚であるサクラマス等の体験放流を学校関係機関と連携して実施し、栽培漁業の重要性を啓発していく。

## 2 事業計画

### (1) 受託事業

#### (ア) 平成29年度山形県栽培漁業センター管理運營業務

委託者 山形県庄内総合支庁産業経済部水産振興課長  
委託料 119,202千円  
契約年月日 平成29年4月1日  
内容 栽培漁業センターの管理運営、水産種苗生產業務及  
水産種苗供給業務。

#### (イ) 平成29年度栽培漁業モニタリング調査

委託者 山形県庄内総合支庁産業経済部水産振興課長  
委託料 66千円  
契約年月日 平成29年4月1日  
内容 ヒラメ栽培漁業モニタリング調査業務のうち市場  
調査。

#### (ウ) 平成29年度山形県サクラマス古寺ふ化場管理運營業務

委託者 山形県知事 吉村美栄子  
委託料 17,737千円  
契約年月日 平成29年4月1日  
内容 サクラマス古寺ふ化場の施設管理、水産種苗生産・供  
給業務及びそ上系稚魚の放流を目指し、親魚確保、種苗生産及び  
防疫対策に関する業務。

### (2) 補助事業

#### 平成29年度広域種資源造成型栽培漁業推進事業

事業内容 資源造成に向けた効率的な種苗生産・放流を進めるため、  
道県を超えた連携、共同した生産・放流体制の課題等の検討を行う。

助成元 公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協議会  
助成金額 353千円

## (2) 種苗生産・供給事業

### [山形県栽培漁業センター]

#### (ア) 種苗生産・供給事業

平成29年度山形県栽培漁業センター業務委託契約に基づき、下記のとおり水産動物を生産し供給する。

魚種	大きさ(供給時)	生産時期	供給時期	供給数量	備考
アワビ	殻長 25 mm以上	4~10月	4~10月	250千個	放流用
	殻長 10 mm以上	5~12月	12月	2千個	教育実習用
	上記供給用稚貝以外に平成30年度供給用として殻長5 mm以上30万個を飼育する。				
ヒラメ	平均全長 40 mm	5~7月	7月	132.5千尾	中間育成用、教育実習用
	平均全長 80 mm	5~8月	8月	16千尾	放流用
アユ	平均全長 80 mm	4~6月	5月、6月	2,040 kg	放流用
	平均全長 55 mm	9~3月	2月、3月	1,695千尾	中間育成用
	上記以外に平成30年度5月、6月に直接放流用として平均全長55 mmの稚魚40万尾を飼育する。				
クロダイ	平均全長 50 mm	5~9月	8月、9月	17.9千尾	放流用、教育実習用
モクズガニ	平均甲幅 7 mm	5~10月	9月、10月	14.4千尾	放流用
トラフグ	平均体長 40 mm	5~9月	9月	40千尾	放流用

#### (イ) 水産生産物売払事業

平成29年度山形県栽培漁業センターの自主事業計画を次のとおりとする。

魚種	大きさ(供給時)	生産時期	供給時期	供給数量	備考
アワビ	殻長 25 mm	4~3月	4~3月	10千個	中間育成用
ヒラメ	全長 80 mm	5~8月	8月	18千尾	放流用
アユ	全長 80 mm以上	4~7月	5~7月	500 kg	放流用
	全長 55 mm以上	10~3月	2~3月	600千尾	中間育成用
	体重 1g	10~3月	2~3月	200千尾	中間育成用
	全長 10~15 cm	5~9月	6~9月	10千尾	食材用
庄内アワビ	殻長 70 mm	4~3月	4~3月	8千個	食材用
クロソイ	全長 30 mm	4~7月	7月	150千尾	生産用

**[山形県サクラマス古寺ふ化場]**

**(ア) 種苗生産・供給事業**

平成29年度山形県サクラマス古寺ふ化場業務委託契約に基づき、下記のとおり稚魚、幼魚を生産し供給する。

魚 種	種 別 (魚体重)	生産時期	供給時期	供給数量	備 考
サクラマス	稚魚 (2.5g 以上)	4~7 月	6~7 月	533,200 尾	放 流 用
	幼魚 (20g 以上)	4~3 月	10・3 月	30,000 尾	放 流 用

**[内水面水産センター]**

**(ア) 水産生産物売払事業**

平成29年度内水面水産センターの自主事業計画を次のとおりとする。

魚 種	種 別	生産時期	供給時期	供給数量	備 考
ニジマス	稚 魚	4~7 月	4~7 月	205 千尾	養殖業者及び放流用
	成 魚	4~8 月	4~8 月	1,300 k g	放流、イベント用
サクラマス (ヤマメ)	発眼卵	10~12 月	10~12 月	100 千粒	河川埋没放流用等
	稚 魚	4~8 月	4~8 月	50 千尾	放 流 用
	幼 魚	4~10 月	4~10 月	13 千尾	放 流 用
	成 魚	4~10 月	4~10 月	1,200 k g	放流、イベント用
イワナ	稚 魚	4~8 月	4~8 月	138.5 千尾	放 流 用
	幼 魚	4~10 月	4~10 月	13 千尾	放 流 用
	成 魚	4~10 月	4~10 月	1,500 k g	放流、イベント用